

発行：令和元年 10月 1日 明野地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

8月28日（水）に開催された明野地域まちづくりビジョンフォローアップ会議についてご報告します。当日は市から委嘱を受けた地域代表が参加し、課題や将来像、地域、行政それぞれの取り組み状況などを共有しました。

■フォローアップ会議って？

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」を策定し、昨年7月に市長に提言しました。

ビジョンの実現に向けて市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため、行政に望むこと、地域や私たちができることのテーマでビジョンに掲げる事業の進捗状況を報告し、その進め方や課題などについて情報共有や意見交換を行うものです。

【会長】山田 軍才（明野校区公民館長）

【副会長】小野 昭三郎（明野地区自治委員連絡協議会会長）

【委員】明野地区自治会連合会・明野地区社会福祉協議会・明野地区婦人団体連合会・明野地区体育協会・明野地区老人クラブ連合会
明野地区小中学校PTA・明野地区防災士連絡協議会・明野地区クリーン推進員協議会・明野地区青少年健全育成連絡協議会
明野地区民生委員児童委員協議会・明野地区健康推進員協議会（以上団体から19名）計21名

■明野地域ビジョンフォローアップ会議

日時：令和元年 8月 28日（水）18：00～

場所：明野支所 2階大会議室

【議事】

- ・会議の公開について
- ・地域まちづくりビジョンについて
- ・地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
- ・地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
- ・意見交換

■ビジョンに掲げる取組みの進捗について（抜粋）

○提言1「多世代が交流する地域コミュニティの新構築を」

- ・平成29年度、出張所から支所として地域担当班を設置、地域の課題解決や活性化の体制を強化（市）
- ・地元要望「多世代交流プラザ（仮称）」建設には全市民的な均衡を考慮した慎重な議論が必要（市）
- ・多世代交流プラザの市議会への陳情は継続審議中、動向を注視（市）
- ・小中学校ではコミュニティスクールを導入して地域とともにある学校づくりを実践（地域）
- ・地域まちづくり活性化事業で「紙みこし」製作を実施、明野まつりの機運を醸成（地域）
- ・校区公民館事業で小学校3年生に明野歴史講座と保存会による明野音頭の講習を実施（地域）



○提言2「明野を総合防災拠点に」

- ・地元要望「複合型防災訓練センター（仮称）」建設について、県での整備意向はないとの回答（市）
- ・防災訓練センター併設の科学館について、市の科学教育では既存施設の有効活用を努めている（市）
- ・防災訓練センターの市議会への陳情は継続審議中、動向を注視（市）
- ・自治会やPTA対象の防犯カメラの設置補助、大分市通学路安全プログラムによる危険個所の点検を実施（地域）
- ・青少協や補導員等のパトロール、子ども連絡所、警察、学校、PTA、地域、行政が連携して防犯を強化（地域）

○提言3「新しい試みと魅力の発信を」

- ・松栄山公園、野中公園、奥山公園は、スポーツゾーンと憩いのゾーンをそれぞれ整備（市）
- ・既存の公園遊具の更新時に地元協議を予定（市）
- ・循環バス実証の実施とバス路線の見直しを事業者と検討（市）
- ・県と連携し新交通システムの導入可能性の研究に着手（市）
- ・公園愛護会やクリーン推進員が美化活動を実施（地域）
- ・県営住宅の整備について県に要望（地域）



○提言4「多様な文化活動の広がりや深まりの推進を」

- ・青空図書館（古本交換市）や図書館研究を実施、地域まちづくり活性化事業で支援（市・地域）
- ・明野高尾「ふれんどまちづくり」で、多世代交流のカフェやサロンを実施（地域）

地域では、自治会連合会やPTA役員を中心に「明野ビジョン会議」を開催してビジョンの具現化に努めています

※明野地域の4つの提言、13の取組みについては裏面をご覧ください

■委員のみなさんから多くのご意見がありました（抜粋）

■明野地区には、明野団地開発50年のときに地域で策定した「明野創生ビジョン」と、行政の支援のもと策定したこの「明野地域まちづくりビジョン」がある。その中で多世代交流プラザ建設は地域活性化のエンジンである

■現在の明野支所は他の支所と比べてスペース不足・設備不足で拡充が必要。防災や健康、交流・研修施設の充実を望む

■子供や高齢者の居場所が足りない。明野高尾でも実践しているが、図書や調理は多世代交流に非常に有効

■図書運動を推進しているが、支所や公民館の職員と一緒にもっと研究していきたい

■多世代交流プラザは地域活性化に繋がる多世代の居場所となるべきで、住民の総意で盛りあげることが必要

■地域間競争の激化を踏まえ、多世代交流プラザ建設には、支所を核施設に複合型施設の検討が必要

■防災意識を高めるには体験が必要。県内には体験施設がない。大分市は新産都の町。防災訓練センターに先端技術を駆使した科学館を併設すれば、今までにない魅力的な施設になる。市も県にプッシュしてほしい

■明野は防災訓練センターの立地に最適。高台で津波の心配もなく、高速道路が近くドーム周辺が備蓄輸送の拠点でもある

■多世代交流プラザ建設、総合防災訓練センター建設の陳情について、市議会（総務常任委員会）との意見交換会では前向きな姿勢を感じ、明野の考えや熱意は伝わったと思う



■市内13地域がビジョンの実現に向けて努力している。全員で懸命に取り組む必要がある

■様々な活動を通して、明野ブランドをどう作っていくかという視点が重要である

■地域まちづくりビジョンシンポジウムを開催します

日時：11月23日（土）13時30分から

場所：コンパルホール 3階 多目的ホール

子育て世代など若い世代の方々や地域まちづくりビジョンを共有し、様々な世代が参加するまちづくりの機運を醸成します。

■明野は魅力的な町だが公共交通網だけが唯一のネック。渋滞も酷く、新交通システム導入への期待もある

■先般の循環バス実証実験では、利用者のターゲットが不明であった。地元へのリサーチで路線バスの利用価値はもっとあがるはず



■古くなった県営住宅の対策が遅れており、まずは住環境、暮らしやすさを優先しながらビジョン全体をすすめたい

■高齢化もあり、民生委員の選任にも苦勞しており、担い手が不足している。小地域福祉ネットワークの整備を進め、地域福祉の充実が必要

■ふれあいサロンや老人クラブについて、活動の宣伝を強化してもっと多くの高齢者が集まれるようにしたい

■多世代交流プラザなどビジョンの推進と共に、既存施設の有効活用も重要。明野幼稚園が廃園になるが、その活用方法について地元と相談してほしい

■地域コミュニティ活性化とプライバシー意識のバランスに苦慮している。特にマンション住まいの高齢者などの安否確認に困難があり、市の施策の状況が気になっている



■交通安全対策は、地元の取り組みだけでは不十分なので、行政もきちんと取り組んでほしい

■明野地域ふれあい市長室を開催します

日時：12月18日（水）18時00分から

場所：あけのアクロスタウン アクロスホール

フォローアップ会議の市民報告会を兼ねた「ふれあい市長室」を開催します。市政全般への意見、提言を幅広く伺います。

■出された意見は、市の担当部署で検討し、その後の進捗状況等について次回フォローアップ会議で報告します

■今後も市民協働のまちづくりを推進して行きます！

明野地域まちづくりビジョン『提言』

提言 1 多世代が交流する地域コミュニティの新構築を

明野地域のこれまでのコミュニティ形成においては、恵まれた生活環境と職縁の役割が大きかったが、時代の変遷とともに変化する生活様式や価値観に対応できる新しい地域ネットワークが必要である。隣人の顔が見えるふれあいを積み重ね、多世代が交流する地域コミュニティの新構築への行動が求められている。

【事業番号 1, 8, 9, 10, 11, 12】

提言 2 明野を総合防災拠点に

安心して暮らせるまちを実現するためには、地域が一体となった防災・防犯対策が不可欠である。幹線道路や公園などインフラの骨格が充実した立地特性を生かし、災害避難時を想定した道路整備等のハード面からご近所の安否伝達等のソフト面まで、まちづくりの知恵を持ち寄り、地域防災を研究・実施する大分市の総合的な防災拠点となることが望まれる。【事業番号 2, 3, 5】

提言 3 新しい試みと魅力の発信を

新産業都市企業群を支える新興団地起工から50年、ゆとりある住まいは生活者の利便性だけでなく、生産活動の一翼をも担っている。そのような明野には、新しい住まい方を提案する住環境整備、多世代交流を推進する施設整備、利用実態に即した公園整備など、新しい試みのモデル地区として、その魅力の発信が必要である。

【事業番号 4, 6, 7】

提言 4 多様な文化活動の広がりや深まりの推進を

明野地域の三大大行事（大体育祭、明野まつり、芸能祭）は住民交流の場として定着し、地域の融和や団結への期待は今も大きい。交流による出会いは、人と人をつなぎ、まちへの愛着と文化をはぐくみ、次代の担い手育成の契機となる。交流文化の灯が絶えぬよう、多様な文化活動の広がりや深まりを推進したい。【事業番号 13】

明野地域まちづくりビジョン会議

平成 30 年 7 月

事業番号	取組名	概要
1	コミュニティ新構築のための多世代交流	高齢者の技能や技術、知識の継承、さらには生きがいづくりや居場所づくりの解決を図るために、多様な組織や人材が活動する拠点施設が必要である。建設の際には、支所の配置、在り方について検討した上で、支所を核施設に図書館や各種交流施設、研修施設等を複合した「多世代交流プラザ」を建設する。
2	明野を総合防災拠点に	明野は地理的、地勢的にも優位性にあることから、防災訓練機能を備えた拠点施設を主とし、子ども科学館を併設した複合的な施設を建設する。
3	幹線道路整備と歩道の改良	<ul style="list-style-type: none"> 慢性的な交通渋滞解消のため、庄の原佐野線の早期延伸と、それに先行する大分臼杵線の4車線化を要望する。 松岡日岡線の交差点改良、沿線の用途地域変更による地域商業の活性化を推進する。 団地内の美化とともに災害発生時と交通安全を見込んだ無電柱化と、歩道のバリアフリー化を図る。
4	公園・緑地の整備と利活用	<ul style="list-style-type: none"> 公園が日常的な交流の場となるよう、マルシェやフリーマーケットを開く。 スポーツ利用のゾーンは憩いのゾーンとは別に、効果的な整備ができるようにする。アクティビティ器具を導入し、多世代に魅力ある運動遊びを提示する。
5	防犯のための環境設計	社会状況の変化によって、防犯や交通安全の機能が相対的に低下してきている。子どもの見守り活動の実施、危険な場所の点検や改善など、防犯性の高いまちとなるよう環境設計を行う。
6	コミュニティバスの運行などの公共交通網の整備	事業者、医療・福祉機関、自治会、行政の協働でコミュニティバスの運行を行うなど、さまざまな方法により公共交通の整備を検討する。
7	多様な世代に対応した住宅の供給	老朽化した公営住宅が再建の段階にきている。多様なニーズに対応できる住宅を供給するために、高層化やエレベータをつけるなど改良が望まれる。
8	地域のつながり強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながりを強化するため、コミュニティ・スクールの導入に向け、地域、中学校、小学校、家庭の連携を深める。 子ども同士および子どもを介したコミュニティの新構築を図り、ライフステージに応じた地域での役割を用意する。
9	ふるさと意識の醸成	近年では、小学生へ明野の歴史講座や明野音頭の指導を行っており、ふるさと意識を醸成していく良い機会ととらえている。子どもたちのふるさとへの関心を深め、地域活動への参加意識を高める。
10	地域グループの創生と次世代のリーダー育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活力を継続的に発揮するには、子育て世代が地域活動に関わるのが最良のエネルギーであることから、横のつながりをつくり上げ、地域グループによる積極的な活動を行う。 他地域と比べ青年層の就業者が多いことから、地域行事に積極的に参加するよう働きかけ、次世代のリーダーとして育成する。
11	自治会区域の再検討	都市内分権を進める上では、自治会区域の再検討が必要である。円滑な運営、きめ細かな世話活動のために、実態を考慮し可能な限り規模の均等化を行う。
12	高齢者を支えるネットワークの構築	高齢者を地域でお互いに見守り・支え合うネットワークを構築し、豊かな地域福祉を実現する。
13	明野ブランドの創生	住民の交流と融和、生活のしやすさや教育環境、明野らしい文化・アート活動等を地域の価値として、明野が誇る地域ブランド・イメージを強化する。